

第19回中四国サミット 議事録

平成21年5月18日(月) 11:00~12:30

全国都市会館 3階「第1会議室」

出席者 平井鳥取県知事, 溝口島根県知事, 石井岡山県知事, 有岡広島県副知事, 二井山口県知事, 里見徳島県副知事, 真鍋香川県知事, 高浜愛媛県副知事, 十河高知県副知事, 福田中国経済連合会会長, 大西四国経済連合会会長

〔妹尾広島県企画振興局長〕

おはようございます。ただ今から第19回中四国サミットを開催させていただきます。本日の司会を務めさせていただきます広島県企画振興局の妹尾でございます。どうぞよろしくお願い致します。

開会にあたりまして、本来開催県でございます広島県の藤田知事がごあいさつを申し上げるべきところでございますが、現在、病氣療養中のため、本日は有岡副知事が代理を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

〔有岡広島県副知事〕

おはようございます。広島県副知事の有岡でございます。ただ今申し上げましたように、本来であれば藤田知事自らが参りましてごあいさつ申し上げるべきところでございますけれども、ご案内のとおり現在病氣療養中でございます。おかげ様で手術後の経過は大変良好でございますけれども、本日は残念ながら出席がかないませんので、僭越ではございますけれども、代わりましてごあいさつを申し上げたいと思います。

本日は中国四国各県の行政を司る皆様方、そして中国経連の福田会長、四国経連の大西会長に、わざわざお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ご案内のとおり今回は第19回ということで、9県ございますので2巡致しまして、3巡目の第1回ということになりました。前回のサミットの時に議論になったかと思っておりますけれども、なかなか中四国で開催するにしても集まりにくいのではないかというご意見がございまして、何か工夫してはどうかということで、私どもが第19回の事務局を承っておったのですが、その中で色々検討させていただいて、各県とも調整をさせていただいたところでございます。

その結果として、この度全国知事会がこちらで開催されるということで、それに合わせて開いてはどうかということで各県ともお話し合いをさせていただきました結果、そうしましょうということになったのでございます。中国経済連合会福田会長、四国経済連合会大西会長には、わざわざお越しいただくことになり、申し訳なく思っております。今後、どのように開催していくかはこれから相談させていただかなければなりませんけれども、今回、このような開催になったことをご理解ください。

本日は大きく2つの議題がございます。1つは高速道路料金に大幅な割引制度が導入されたということで、かなりの利用が見込まれており、ゴールデンウィークにも随分多くの方が利用されておりますけれども、これを原動力として、地域活性化策を議論していただきたいということが1点でございます。

もう1点は、ハード面で、まだまだ高速道路網の整備がされていない部分がございますので、これにどういふふうに対応していくかということも、合わせてご議論いただきたいと思ひます。

そうは言ひましても、現在の経済情勢では、各県とも大変ではないかと思ひております。今申し上げましたような明るい材料がございますので、こういった厳しい中でこそ、新たな道が見出されるといふことでご議論を深めていただければと思ひております。

最後になりましたけれども、この中四国サミットが意義深いものになりますことを念願致しまして、あいさつとさせていただきます。本日は、ありがとうございます。

〔妹尾広島県企画振興局長〕

続きまして議長の選出でございます。当サミットの議長は、慣例によりまして開催県の知事が務めることとなっておりますが、先ほど申し上げましたとおり、本日は知事代理として有岡副知事が会議を進行させていただきたいと存じますが、よろしゅうございますか。

異議なし。

〔妹尾広島県企画振興局長〕

ありがとうございます。それでは有岡副知事、進行の方よろしくお願ひ致します。

〔有岡広島県副知事〕

それでは、これからの会議の進行は私が務めさせていただきます。着席のままで進行させていただきますので、よろしくお願ひ致します。

では、まず報告事項と致しまして、広域自治体・都道府県のあり方に関する調査研究並びに共同イベントについて、事務局から総括的に説明をさせていただきます。

〔妹尾広島県企画振興局長〕

まず、資料1をご覧くださいと思ひます。第15回中四国サミットで岡山県知事さんからご提案がありました広域自治体のあり方・広域連携に係る中四国担当課長会議を昨年7月23日に開催し、意見交換を行ったところでございます。

次に共同イベントの状況でございます。お手元の資料2、共同イベント『中四国文化の集い』についての1ページをご覧くださいと思ひます。共同イベントにつきましては、中四国各県の文化交流の促進と広域的な発表機会の充実を図るため、平成4年度から『中四国文化の集い』を実施しております。

昨年度は12月14日に鳥取県鳥取市のとりぎん文化会館におきまして、青少年による地域伝統芸能の祭典が開催されました。次世代を担う青少年による地域伝統芸能の祭典をテーマに、各県から引率を含め140名を超える方にご参加いただいております。開催に当たりましては本年10月に鳥取県で開催される日本のまつり・鳥取2009のプレイベントと位置付け、財団法人鳥取県文化振興財団の共催をいただきました。

2ページ目をご覧くださいと思ひます。今年度の『中四国文化の集い』は12月19日、20日の土日両日、岡山県の倉敷市においてジャズの祭典として開催されます。中国四国各県で活躍する

ジャズ演奏家を招き、19日は美観地区で開催される Jazz Combo に参加いただき、地元ミュージシャンとのジャムセッションによる交流を予定しており、日曜日には倉敷市芸文館でジャズオーケストラによる演奏会を開催するなど、文化活動の発表の機会の充実と文化意識の一層の高揚を図るとともに、地域の歴史と文化から生まれた伝統文化を引き継ぎながら、新たな生活文化の創造を図ることと致しております。事務局からの報告は以上でございます。

〔有岡広島県副知事〕

それでは、次に意見交換に移りたいと思います。先ほど申し上げましたとおり、本日は二つの議題を主として意見交換させていただきたいと思っております。その1点目は本州四国連絡高速道路の料金引き下げを契機とした連携方策と恒久的な料金引き下げについてでございます。まずは事務局から資料の説明をさせていただきます。

〔妹尾広島県企画振興局長〕

資料3「本州四国連絡高速道路料金割引のご案内」をご覧くださいと思います。

皆様ご承知のとおり、平成20年10月30日の政府与党の生活対策における高速道路料金の大幅引き下げ等に基づいて、高速道路株式会社6社においてETC車の通行料金の引き下げが行われることとなりました。資料の1ページをご覧くださいと思いますが、中国地方と四国地方を結ぶ本州四国連絡高速道路につきましては、土曜日、祝日割引が平成21年3月20日から、平日割引が平成21年3月23日から、いずれも約2年間の期間で予定されております。対象路線につきましては1ページ目の下でございますとおり、広島県と愛媛県を結ぶ『しまなみ海道』、岡山県と香川県を結ぶ『瀬戸中央自動車道、瀬戸大橋』でございます。更に兵庫県と徳島県を結ぶ『神戸淡路鳴門自動車道』の3路線とされています。

料金につきましては1ページの上段でございますとおり、軽自動車等および普通自動車につきましては、土曜日、祝日の通行料金が1,000円を上限とした終日50%割引と大幅な割引が行われているところが特徴でございます。このページを開いていただきまして、普通車等の土日祝日割引の詳細につきましては、右の上段の割引例でございますとおり、3路線いずれにおいても通常料金と比較して、約3,000～4,000円の割引となっております。

また、先般のゴールデンウィーク中もそうでしたが、土日祝日以外でも本州四国連絡高速道路株式会社が指定する日、例えば9月の第4週などは上限1,000円の割引が適用されることとなります。その他の車種とそれぞれの割引等につきましては資料をご参照いただくこととして、説明は割愛させていただきます。

次に資料番号4をご覧くださいと思います。まず1ページ上段の1、割引導入3月20日から4月19日までの割引対象期間の平均日交通量でございます。ご覧いただいておりますように、本州と四国を結びます3路線の交通量は対前週比1.9～2.4倍、対前年同期比1.7～2.3倍となっており、下の段の2ゴールデンウィーク期間12日間の平均交通量も3路線とも対前年比1.4～1.8倍と大幅に増加しております。

2ページ目をご覧くださいと思います。本四連絡道路の利用の変化について割引導入前の3月14日土曜日と導入日の3月20日、祝日をETC車両の調査により、3路線の合計で比較したものでございます。資料の中ほどのグラフをご覧くださいますと、両日の単純比較では2.8倍の伸び率を示しており、地域別利用台数で見ますと近畿、四国、中国地方の各地方間の利用が大きく増加をし

ております。次のページをご覧いただきたいと思います。

本四連絡道路沿線の観光施設の利用者数の変化でございます。割引後1カ月間の利用者数を昨年同期と比較しておりますが、上段の右側でございます徳島県において約30%の増加、続いて広島、愛媛両県が約20%の増加、岡山県、香川県、高知県がそれぞれ約10%の増加となっており、沿線施設の利用者の増加が伺えます。なお、この資料4につきましては、本州四国連絡橋高速道路株式会社の報道資料から抜粋し作成致しております。事務局からは以上でございます。

〔有岡広島県副知事〕

それでは、この議題につきましてのご意見等がございましたら、お願い申し上げます。

〔平井鳥取県知事〕

あとで補足して、また発言の機会をいただきたいと思いますが、今ご説明があったことにつきましては、是非これは推進すべきだと思いますし、できればこうした料金の引き下げとか、高速道路の財源確保によります整備の加速化を、我々は一致して求めていくべきだと思いますし、恒久的なものにしていかなければならないと思います。その辺を確認するべきではないかと考えています。山陰方面におきましてもだいぶ集客が上がっておりまして、こうしたことで新しい交通の時代が始まったことを、予感をさせていただいております。

それと合わせて先ほど報告があったことについて1点だけ、付言をさせていただきますと、中四国文化の集いがございますけれども、これはこのままではややちょっと形式的かなという感じが致します。今回、開催してみまして、参加していただきました中四国7県の子どもたちは非常に充足感をもって、更にお互いに交流の機会もあって、大変に意義があったと思います。今後こうしたイベントは、私は必要だと思って申し上げるのですが、であればこそ、例えばお互いの県の広報で、こうした中四国の統一イベントをやりますよということを、はっきりとPRをする、中四国の一体性を高めていくことにも資するような、運用を図っていくべきではないかと思っております。

あと1点、折角ここで中四国9県が温合っている訳でございますので、今は我々地方団体が向き合っている緊急の課題である新型インフルエンザについて、我々として一致して、抑制、鎮圧に向かっていくことを、我々も今後、協議を密にすべきではないかと思っております。

例えば、今、大阪、神戸で急速に感染が広がっておりますけれども、四国も中国地方もそれと大体圏域を一体にしておりますし、経済圏域も一体でございます。ですから、いつ潜入してきてもおかしくないし、ひょっとするともう入っているかもしれないと、それぐらいの覚悟で臨まなければならない事態ではないかと思うのです。せつかく9県でお互いにそれぞれ検体検査ができる体制にありますので、もし異常を起たして検体検査がオーバーヒートしてしまうと、その県で受け入れできないということであれば、お互いの県で協力をして、その検査に協力していきましょとか、中四国各県の間でもフェールセーフをやっっていこうということを、この場でご了解を得られるのであれば、そうしたことも今後実務的に協議を進めてもらうこともどうかと思っております。

そういうことも含めまして、せつかく9県で集まる機会もありますので、新型インフルエンザ対策について情報共有をしたり、対策を共有できる場所は共有化していくことも、今後話し合ってみてはどうかと思っております。

〔有岡広島県副知事〕

はい、ありがとうございます。1点目の中四国文化の集いにつきましては、質問・意見の時間を設ければ良かったのですが、もっとものお話だと思いますので、開催県である岡山県と事務局である私どもの方で、お話をさせていただきたいと思っております。

新型インフルエンザの件でございますけれども、おっしゃるとおりだと思っております。

時間がかかなりタイトですけれども、先に高速道路のお話、高速自動車道のお話をし、その後に新型インフルエンザのお話についても、この場で協力をしていきたいと思いますということを、申合せらるようにもっていきたいと思っておりますので、少しお時間いただきたいと思います。この時間の中でやりたいと思っております。

それでは、議題の通行料金について、お願い致します。

〔真鍋香川県知事〕

我々官民あげて国に要望してきて、通行料金が現実にあのように下がらして、非常に大きな経済効果があったというふうに思っています。最近、新聞とか色々なものを見ていると、あれは原油の価格、ガソリンが上がった時の対策だったので、今やるのはどうかみたいなことを言う人がいるんですけども、今、こういう経済不況の時こそこういうことをやって、私はかなりの経済効果があったというふうに思いますし、四国にとりましては、私も連休中色々県内を走ってまして、県外の車がたくさん入っているというふうなことでございました。『うどん』だけではなくて、色々なところに効果があったというふうに思っています。ちょっと余談になりますが、『うどん』はあまり来すぎまして近所に迷惑をかけるというので連休期間は閉店をした老舗もございまして、長く続くことが大事であると思っております。

お互いに連携をして、今、岡山県とは色々な両県で開催するイベントを広報紙に掲載してもらおうという協力もやっているのですが、それぞれ中四国の各県がお互いにこういうイベントをやっているよということをお互いにPRしながら、是非利用率を高めていって、何とかこの安い料金が続くようにやっていくべきであるというふうに思っております。

それと、やはり私は、如何にこの橋の料金が高くて、これを下げてもものすごい勢いで入ってきたという、これは長く見てみないと分かりませんが、やはり海がバリアーになっていたというより料金がバリアーだったのだということを言う人がいたんですけども、今回は本当にそれが証明されたのではないかというふうに思います。やはり日本の高速道路、空港もそうですけれども、高い料金を取ってやるのがいいのか、本当にせつかく造った立派なものを、利用率を高めるということが大事なのではないかというふうに思います。そういうことでこれを続けて、私は何も45年でタダにするというのが本当にいいのかどうかと、やはり50年後の人、60年後の人にも1,000円ぐらいは払ってもらった方がいいので、少し長期間で考えて、伸ばすことも考えて、やはり利用しやすい料金にすべきであると思います。

今までのやり方は、大体何年間で無料にすると言っておきながら、やはり駄目だったからまた延ばすということでやってきて、これも多分45年でやりますと言っておいて、またこれを延ばす、結果として延ばしてまた出資してくれとかそういう話につながってきているので、そういうやり方ではなくてむしろどんどん安くして目いっぱい使わせることによって、結果としては、終わってみたら、100年後に考えてみたら、結局一番短い期間であったのではないかと、高い金利の金で造っている訳ですから、金利がどんどん嵩んでいくというのを、結局はどうやったら一番短い期間で償還ができるかということも念頭におきながら、また、やはり無料化が本当にいいのかどうかということについて

は、よく議論をしなきゃいけない面があるのではないかというふうに思いますし、暫定税率とかそういう税はやはり取るべきである。取って、料金を安くするために、福祉とか何とかに使うよりは、こういう料金を引き下げにもっと導入すべきであって、我々の中四国は車をたくさん持っていますので、たくさん税金を払っているのです。

それに比べて橋には、1兆3,000億円つぎ込んでくれましたけれども、従来は使っていなかった訳で、二重に負担をさせられていた訳ですから、やはりそういう税を取ってどんどん投入して、使いやすい料金にしていくという方向でやっていくべきであるというふうに思いますので、2年後に向かってそれぞれ議論をしていきたいとしたいと思いますし、24年でしたか、また出資をしろということがあるんですけども、これについては県民感情とか色々考えますと、更に出資ということは難しいと私は思っておりますので、これらについても関係県と色々議論をして、共同歩調を取っていきたいと思っております。以上です。

〔石井岡山県知事〕

それでは、対岸の県の方からということ、まったく私も真鍋知事のご主張に賛成させていただきたいと思えます。まずは恒久的な料金引き下げ、これにつながっていくように、私どもと致しましては関係の県或いは市が更に一層連携を深めることによりまして、観光振興とか或いは経済面或いは先ほど平井知事からもお話いただきましたけど文化面、こういったものの交流を更に促進して行って恒久的な引き下げにつながってくるような、そういう具体的な行動を、我々はこれからもより一層強めていかなきゃいけないというふうに考えております。

具体的なお提案をいただきました私どもも、県の広報紙を活用致しまして、香川県さんと既にイベント等のPRをお互いに行っておりますが、先般の平井知事さんとの合意を得まして、鳥取県さんともこのたび実施をすることにしましたけども、是非とも中四国各県との様々なイベントとか、或いは観光とかグルメとか色々あるかと思えますから、そういったものをお互いの広報紙を活用させていただきますして、また先ほどのお話の文化面におきまして、こういったものも積極的にPRをしていくということをして是非行う。こういうことを行いながら、国の方の恒久的な料金引き下げにつながるような、地元からの具体的な対応ということをして是非図っていかなきゃいけないというふうに思っております。

今回は週末ということでございますけれども、物流面等におきましてさらなる引き下げということについての強いご要請が関係業界からもある訳でございますし、またこれによってフェリー等のそちらの方にも色々な大きな問題が発生しているということでございますから、そういう関係の方々の強い声というものも、我々は国の方にしっかりと地元としてお伝えしていかなきゃいけないと考えているところでございます。

先ほど出ました『中四国文化の集い』でございますが、別途というお話もございましたけどせっかく今、平井知事さんからご提案いただいたのですが、実は次回が岡山県ということでございます、今ご紹介いただきましたように倉敷の方でジャズということで、今、準備に取り掛かっている訳でございますして、大変関係の方々が集まっただいて、一生懸命今までの練習の成果を発表されるということは、大変意義があると思うのです。そして、自分の県だけではなく、中四国の連携の中でその地に向いて発表させていただくということで、一生懸命、なお一層練習にも励みが出るのではないかというふうに思っております、是非とも経済情勢が厳しい中で色々なご議論があらうかと思えますけれども、まずはこの中四国サミットの中で合意をされまして、一つの大きな事業として今日まで

展開をされてきました、この『中四国文化の集い』につきましては、今後ともなお一層工夫を凝らしながら、我々と致しましてはなお一層これが文化を通じましての中四国の連携の強化につながっていくと、こういったことを是非前向きに取り組んでいくことができればと思っているところでございまして、特に青少年の皆さんはその地に行って、色々な流をし、また色々なその地域の歴史とか或いは文化とかいうことに接することによって、新しい発見をして、更にまた大きく成長してくれると思っているところでございまして、そういった面での意義深い事業でございしますので、お互いに工夫をしながら、是非ともこれを継続をさせていただきますればと強く要望させていただきたいと思っております。

〔二井山口県知事〕

山口県の場合は今回のケースで見えますと、中国縦貫自動車道も山陽自動車道も、確かに交通量は増えました。ただ、それが山口県の観光等にどのぐらい良い成果が上がったかということになると、山口県の場合にはなかなかつかみにくいところがあります。というのは九州との関係もありますから、九州の方に行ったかも分からないし、その辺が分からないというのはある訳ですけども、従って観光面ではもう少し分析をしてみなければいけないということはあるんですけども、今、石井知事から話がありましたように、山口県の場合は山口県から愛媛県と大分県にフェリーが出ているのです。

このフェリーが非常に大きな影響を受けてしまいました。今、地球温暖化防止ということが強く言われている状況の中にもありますから、こういう路線が、内航フェリーが万が一無くなるということになりますと、地球温暖化防止のことももちろんありますけれども、大規模災害が起きた時にどうするかとか色々なことを考えますと、その辺の対策をしっかりとやっていただくことが大変重要ではないかというふうに思います。

従って、今回の1,000円というのは、その辺まで、他の影響まで考えてやられたかということになると、少し疑問があると思いますから、これから恒久化ということについては私も賛同しますが、どういう影響が他の分野に出てきたか、その辺をしっかりと今回検証して、そういうところの対策も国の方で並行してやるということを考えていただく必要があるのではないかということを感じたところではあります。

それから細かい話ですけども、これも分析をしてみないと分かりませんが、1,000円で来られた方が来られた地でどういう形で観光地を回られているのか。これは1,000円というのは非常に割安感が一方であるものですから、今度は来たところの先で高速道路に乗ると、逆に非常に高く思うということもある訳です。そうすると、今回1,000円で来られた人たちに対して、観光資源をどういう形で提供したら一番効果的なのかというような観光戦略も、今までとおりでいいのかも分かりませんが、もう1度分析をしながらどういう形で体的にPRをしたらいいのかということを検討したらどうだろうかというような感じがします。特に山口県は、部分的ではありますが、やはり中四国は瀬戸内海という素晴らしい資源を持っておりますから、そういうことを一つの核にしながら、どういう形で中四国が連携を取ってやっていったらいいのかということを検討したらどうかと思うのです。以上です。

〔溝口島根県知事〕

私も、今回の高速料金1,000円という効果の大きさにビックリしました。島根県はやはり大都市との交通、時間的な距離が非常に遠いので、それが観光とか産業発展に大きなバリアーになっ

ているということを言ってきて、高速道路等の整備が必要だということを訴えておりましたが、それに加えてやはり料金の、コストのバリアーも相当大きいのだなということが分かりましたのが一つ。

それから、ナンバーなどを見ますと各地から来ておられますね。関東、東北、九州、場合によっては北海道あたりも来ていますし、この問題は高速料金という仕組みがいいのかどうかですね。例えばドイツなどはもうほとんどただですけども、アメリカなどもそうですけども、そういうことによって、人も動かす、かき混ぜる効果というのが相当あるのだなと、私ももう一つの論点として、人、物が大都市に集中し過ぎている。むしろ地方分散をすることが日本の大きな発展にとって大事なのだということを主張していますが、そういう観点からこういう問題を見ていいのではないかなという感想を持っておりまして、皆さんと同じように高速料金をなるべく恒常的に低くするということを賛成したいと思ひますし、一緒になって活動してまいりたいと思ひます。

そういう観点から見ますと、日本海側は高速道がまだ全部できあがってなくて、ぶつ切れになっている訳でありまして、今回の1,000円の料金も、いったん下りて、再度乗るとまた1,000円払うとなって、遅れているところ、例えば松江から高速道を使いますと54号というのは途中で切れる訳です。広島に入って高速道に乗る。そうするともう1回払わなきゃいけない。整備の悪いところの方が更に料金を払わなきゃいけないという仕組みになっていまして、そういう問題ももう少し総合的に考えなきゃいけない問題じゃないかなと、今後更に検討すべき課題じゃないかと思ひます。

それからやはり、基本的に高速道を早くネットワークとして完成するように、努力を致したいと思ひますのでよろしくお願い申し上げたいということでもあります。

〔高浜愛媛県副知事〕

愛媛県でございます。私ども加戸知事は、今回、「地方財政の展望と地方消費税特別委員会」の委員長になるということで、現在その会が開かれておりまして、そちらに出席をしておりますので、私、副知事ですが出席させていただいております。

今度の引き下げの効果というのは、愛媛県に非常に大きいものがございます。今もお話がありましたが、走ってみまして県外ナンバーの車を多く見ます。所沢であったり練馬であったり札幌であったり、もう全国から1,000円をきっかけにして来ていただいているのだなということを実感致します。この利用促進をもっともっと図っていく必要があるでしょうし、ただ来ていただくだけではなくて、これを契機にして地域の活性化につなげていきたい。そのためには特産品をもっともっとブラッシュアップしていくとかというような取組みが必要だろうということで、今年の2月、庁内にそういう利用促進策を取りまとめるための利用促進会議というものを設置しまして、部局横断でどういう取組みをしていくのか、集客のためにどうしていくのか、特産品の魅力、地域の魅力を高めるためにどうしていくのかという方策の取りまとめを行ったところでもございます。

そういうことを通じながら、やはり念願は、この引き下げが恒久化していくということにつないでいきたいと思っております。

テーマが連携ということですが、最もその連携にふさわしいものとして西瀬戸自動車道がございます。しまなみ海道はちょうど今年が10周年で、広島県さんと愛媛県が一緒になりまして、このしまなみ海道の10周年記念事業に取り組んでいるところで、双方でPRをする、イベントを色々展開していく。連携した取組みを現在進めているところです。それを強化していきたいと思っております。

それから、この機会に一つ文化のことで、紹介させていただきたいのですが、松山市内から車で30分ほど走ったところに東温市がございます。人口が3万人ほどなのですが、「坊っちゃん劇場」という劇場がございます。これは3年前に開設されまして、劇団わらび座を誘致したのですけれども、ここで現在「ミュージカル鶴姫伝説」というものを上演しております。鶴姫といいますのは大三島、大山祇神社の宮司の娘でして、水軍を率いまして、山口県さんにはあれなのですが、当時周防の大内氏と戦ったと伝えられておりまして、そのことをミュージカルにしたものです。ここをつい最近、大阪大学の坂元一哉という教授が訪問してくれまして、見ていただきました。国際政治学者で吉田茂賞も受賞されたという方なのですが、その方に観劇していただきました。そして語呂合わせではないですが、非常に感激してくれまして、全国紙に寄稿をしてくださいました。その中に色々書いてあるのですが、一部を紹介させていただきますと、こういうふうに言ってくださっております。

「歌、音楽、踊り。それぞれ完成度が高い。老若男女、誰もが楽しめる芝居である。」。私が見て感激したと言うよりも、こういう教授が見て感激したという方がインパクトがあると思うので、紹介させていただきます。

それで、えっと思ったのは、先生はその文章の中でこういういわば田舎の風景が劇場周辺に広がっているところで上質の演劇を見ることができるといのは正直言って驚きだったと、国際政治の面でソフトパワーということが言われていて、そのソフトパワーの定義は色々あるけれども、国の魅力と言っていいだろう。それは国だけではなくて、国民一人一人の生活が物質的にも精神的にも豊かになって、初めてソフトパワーというのは本物になるのだと、その意味でこの「坊っちゃん劇場」のように地域に密着をして、その文化生活を豊かにする試みが日本各地で益々増えていくことを期待したいというように紹介をしてくださいました。オバマとかヒラリーのソフトパワーが我が県、我が東温市にあったのかということが我々にとっても驚きでもあり喜びでもあった訳です。

ここは、昨年龍馬をテーマにして1年間舞台をやりました。この時には高知県の尾崎知事にも来ていただきましたし、高知県からも大変多くの方が観劇をしてくださいました。

鶴姫伝説はこの4月にオープンしまして、その時には広島県から藤田知事も見に来てくださいました。今後は広島県での特別講演も予定致しております。

こういうふうに民間のパワーで設立した劇場なのですが、ここが拠点になって交流活動、連携活動が行われている。こういった連携を深め、そして利用促進に努めて、観光面それから高速道路ですが、物流面での本四間の交流を一層推進していきたいと念願を致しております。ちょっとご紹介をさせていただきます。

〔里見徳島県副知事〕

徳島県の里見でございます。今日は飯泉知事がどうしても地元で用務がございまして上京することができませんので、私の方から本県の意見を述べさせていただきますと思います。

四国4県の県民にとりましては、この本四架橋というのは本当に夢の架け橋だった訳です。それが架かって非常に喜んでいた訳なんですけれども、その通行料金が非常に高い。経済が不況になりまして、割高感がだんだん重くのしかかってきました。それで四国の4県知事さんをはじめ関係団体の方々と一緒に一生懸命陳情等を致しまして、社会実験を経て、それで今回の大幅な割引になりました。非常にありがたいことでございます。

先ほど数字でも出ておりましたけれども、本県にとりましてこれは明石架橋、大鳴門橋、両方の橋がある訳なんですけれども、この効果はもう絶大な効果になっております。通行台数もそうなんです

けれども、観光客の入込客を数字で見ましても大幅なアップをしております。先ほど愛媛県の副知事さんからお話がありましたと同じように、本県でも庁内組織でプロジェクトチームを立ち上げて、この千載一遇のチャンスをとにかく生かさなければいけない。それでプロジェクトチームの中で色々な事業を考え、とにかく観光客の誘致、それから物流の活性化、その二つの大きなテーマで厳しい中ですけれども補正予算、当初予算に計上して事業を実施しております。その中で色々な効果が出てくる訳なんですけれども、本県単独でやるのも一つの大きな方法なんですけれども、やはり四国4県全体で色々なことをやらなければいけない。4県の知事さんが集まる、利用促進会議に向けて、今、計画を立てているところでございます。

それから今日のテーマであります4県と、それと中国地方の5県がまた連携してやることも、三つの橋を活用するにおいて非常に大事なことだと思います。

例えば、先ほど色々なお話がありましたけれども、各県のホームページでのそれぞれの各県の紹介、それと今もやっていると思うんですけれども、3橋を利用した観光ルートの接点、それをそれぞれの9県がPRする。これは非常に大事なことはないかと思えます。

また、本県でもフェリーが、うちの県はほとんどが船だったんですけれども、航路というものがほとんど全滅しております。一つだけ残っているのが和歌山に行くフェリーなんですけど、そのフェリーの台数もこのゴールデンウィークでは前年度数十パーセント減という非常にひどい数字が出ておりますから、そういう関係業界への影響というのも検証しながら、国に対しても働きかけを強めながら、この橋の料金引き下げを大いに活用しなければいけないと思えますし、そして大事なのはやはり結果を出して、そしてこの引き下げを恒久的なものにしていかなければいけないと思えます。だから9県が連携して色々なことに取り組むことをやっていかなければならないと思えます。以上でございます。

〔十河高知県副知事〕

高知県の副知事でございます。本県にとりましても今回の料金引き下げというのは、観光面で大きな効果をもたらしました。特に本県におきましては、観光客の63%が自家用車で来県をされているというような実情であります。そういったことから、今後とも料金の引き下げにつきましては、恒久化はもとより、土日、祝日だけの割り引きから平日まで拡大していくとか、或いは自家用車からバス、観光バス等へも拡大していくとか、当然その際には先ほどからご意見のありましたフェリーへの影響等も鑑みないといけません、そういった拡大方向での取組みを進めていきたいというふうに思っています。以上でございます。

〔大西四国経済連合会会長〕

ありがとうございます。経済界と致しましても、皆様のご意見とまったく同じでございます、これはまさに2年間の期限付きの社会実験をされているという感じが致しております。

従いまして、この機会をとらえて交流人口を更に拡大をさせるということが大変重要であろうと、極論としまして、2年後、元の料金に戻すなどということはできる訳がございません。そういったことから考えましても、恒久的な料金引き下げにもって行って、先ほど真鍋知事も申しておりましたけれども、利用者を多くすることによって、面積を同じになるように頑張らなければいけないと、単価を低くするけれど交流人口がどんどん、どんどん増えて、利用していただける方が増えることによって、収入額も確保できるということでございましょうから、是非そういうような方向で進んでいけたらと

いうふうに思っております。

四国にとりまして、今回は非常にフォローの風の吹いた状況下にございます。

NHKさんは徳島を舞台にしたウェルかめを、それから高知県の龍馬伝が来年からの1年間の放映、それから愛媛県は秋山兄弟を軸にした坂の上の雲が3年間というようなことでございますから、四国外から四国へ3橋を通して、そして四国の高速道路を使ってどんどん入って来ていただける。

この間、調査を致しましたら、四国から外へ出ていった台数よりも四国外から四国内へ入ってきた台数ははるかに多い。倍以上多い訳でございます。そういったことから、このことを利用して四国へどんどん人を迎えるような、そういった対策を講じなきゃならないと、そのように考えているところでございます。以上でございます。

〔福田中国経済連合会会長〕

皆さんがおっしゃっていることと私の感想も気持ちもまったく一緒でございます。恒久的な料金引き下げを実現するという事について大賛成でございます。

観光というのは、キザな言い方をしますと、観光の動機というのは異質への憧憬、或いは非日常性への接触と、これが動機だと思っておりますけれども、今、日本全国で1,000円の料金のために実に多くの人々が新しい体験をしているところだと、体の中にその感覚が入って来ている。

先ほど平井知事が新しい交通の時代が始まったと予感したということをおっしゃいましたが、私はそれに同感でございまして、新しい観光のトリガーが今、動いているというふうに理解しております。

観光に関して言いますと、これから皆さん成長産業として取り上げていかれると思っておりますけれども、日本の場合は他国に比べまして随分劣後しております。GDPに対する観光のアウトプット、経済的効果というものの比率が、世界は今、平均で10%強でございます。アジア、欧州、それからアメリカ、北米、皆これが10%台でございます。それに対して日本の場合は5.5%ぐらい。如何にまだ日本が観光というものを軽んじていったのかということでございます。そういう時に絶妙のタイミングで、この1,000円効果が入ってきたなということです。

私は広島県の間でございましてけれども、対岸の四国さんに対する親近感というのは随分持っているのですが、あそこへ行くとする高いからなというのが正直な、あの橋を渡るということが、今はいくらちょっと知りませんが、1万円前後だったと思っておりますので、それだけでもう足が止まっていたのですが、今、しまなみ海道に人が集中しているというのが、非常に中国にいる人間としてよく分かります。やはりこういうことを取り払うことによって人が動く、また物が動いていくのだなということを痛切に感じております。

中国経済連合会は四国経済連合会さんも含めまして、島根、広島、愛媛、高知県に所在します44の経済団体が組織します中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会というのを起こしております。それに所属しております様々の中四国地方が一体となる広域的、技術的な経済交流ネットワークを構築したり、交流、連携事業に取り組んできているところでございます。先ほど二井知事がおっしゃいましたように、この1,000円効果というのが、海に対しての影響が特にそうですけれども、そういうところも考慮しているのかというのは確かに大きな投げかけでございまして、そういう点では今後、陸、海、空の交通機関をバランスよく活用できる人流の活性化施策というのが必要だろうと、また道路に関して言いますと、大型車等のトラックに対するさらなる引き下げ拡大をやることによる物流の効率化、或いは道路を利用しやすくしていくためのスマートインターチェンジの増設などというのを引き続き訴えていかなきゃいけないのかなというふうに思っております。

鶴姫伝説は私も大いに楽しませていただきまして、素晴らしい施設だし、パフォーマンスだったと思います。以上でございます。

〔有岡広島県副知事〕

ありがとうございました。このテーマは、ある意味大変面白い話題かと思えますけれども、皆さんからご意見を賜りまして大変ありがとうございました。まだまだご意見はあるかと思えますけれども、時間の関係もでございますので、本日の皆様方の共通認識と致しましては、今回の料金割り引き、或いはそれによります利用客の増加を非常に積極的に評価したいということ、それから、これから先これを恒久策にする、或いは他の割引制度をどうするかということについては、本当にどういうメリットがあったのかというような検証をきちんと行っていく。それから前向きな話だけでなく、例えば出資がこれからどうなっていくか、或いは道路財源そのものをどうするかとか、或いはフェリー対策をどうするかといったことについても手を携えて研究、検討を進めていくということで、本日の皆様方の共通認識ということにさせていただきたいと存じます。ありがとうございました。

それでは、次に2点目の議題でございますけれども、高速道路ネットワーク整備の推進と道路整備財源の確保についてでございます。これについて事務局からお願い致します。できるだけ簡潔にお願い致します。

〔妹尾広島県企画振興局長〕

資料の5が中国地方の高速道路の整備状況でございます。

東西に結ぶ縦貫自動車道につきましては、2路線は既に整備されておりますが、何と言いましても最大の課題は山陰自動車道でございます。全長約380kmのうち供用区間、一般国道、自動車専用道路を合わせまして約3割でございます。残りの区間の4割程度が事業中、更に3割程度126kmが未着手及び予定路線となっております、この区間の早期供用開始が待たれるところでございます。

資料6へ参りますが、資料6は四国の8の字ネットワークの概要図でございます。これも既にご案内のとおりでございますが、徳島県の徳島市を起点として愛媛県の大洲を終点とする四国縦貫自動車道と、それから徳島県の阿南市を起点として最終的には愛媛県の大洲を回るという形の四国横断自動車道がございます。

このうち縦貫道については、全線が供用開始されておりますが、一部暫定区間がございます。

何と言いましても四国横断の路線について、大部分が未着手となっております、これの早期供用開始が待たれるということでございます。合わせまして、太平洋側に沿って阿南市から高知市を結ぶ阿南安芸自動車道、それから高知県東部自動車道の整備を早急に進めることが大きな課題でございます。概要だけになりましたが、以上でございます。

〔有岡広島県副知事〕

それでは最初に、これを提案されている鳥取県の平井知事の方からお願いできますか。

〔平井鳥取県知事〕

簡潔に申し上げたいと思いますが、高速道路の料金引き下げのメリットがこの地域全体に及んだ訳でありまして、是非これを恒久化するというをやっていただく必要があると思えますが、合わせて現在まだ供用されていない自動車道の全線開通を目指して、これも一致団結して取り組んでいただ

きたいと思います。先ほど溝口知事の方から状況についてお話がございましたので省略をさせていただきたいと思いますが、中国地方においては横断自動車道も2路線ございますし、それから山陰自動車道、これも東西を結ぶ路線として設定はされておりますが、まだいずれも建設整備、計画の段階でございます。こうしたものを四国の横断自動車道と合わせまして、整備をしていくことを強く政府に求めていくべきだと思います。

また、これに必要な財源については、真鍋知事もおっしゃいましたが、きちんとした税の手当ても含めました財源確保も同時に行っていくべきではないかと思います。

〔溝口島根県知事〕

高速道路の整備、私は公共インフラとして、例えば教育だとか社会保障だとかと同じようなものであって、我々の国民の生活にとって欠くべからざる、非常に基礎的な公共サービスでありますから、教育はどこにいても一定の基準で先生の配置が行われており、社会保障もどこへ行っても同じ制度を享受できる訳でありまして、高速道路は生活、産業発展等に非常にクリティカルな役割を果たしている訳でありまして、整備が進んでいないところをまず優先してやる。

それで早く全国ネットワークを完成するというのを、是非ともお願いをしたい。そういう観点からやっていきませんと、整備が遅れているところがありまして、まだまだこっちの方が経済的に大事なんだと、経済効率性重視ということ言えば、これは大都市へどどんいっただけになりますから、その前に全国のネットワークをまず完成するという考え方を、是非とも地方から打ち出していくべきではないかというふうに思います。

全国でみると九州では宮崎の近辺、中四国では高知等の南の方と、北の山陰道でございますし、それから東北の一部でございますから、そういうところを重点的にやるということ、きちんとやっていくということが非常に大事じゃないかと思いますので、ひとつご理解、ご協力のほどをお願い申し上げます。

〔二井山口県知事〕

鳥取、島根とお話がありましたので、山陰自動車道に山口県も関連をしておりますので発言をさせていただきたいと思います。

資料の5でもお分かりになりますように、最も予定路線となったままで長いのが、島根の益田から萩間で、この高速ネットワークというのはやはり広域的にお互いに連携をして、そして地域の活性化を図ろうということですから、つながっていかなければ意味がない訳でありますし、特に九州とのかかわりを見ますと、山陰側3県の活性化を図るためには、やはり今の予定路線を早く計画路線等に上げていかなければいけないというふうに思っております。従いまして、今、話がありましたように、私は道路整備も地方分権の時代ですから、できるだけ地方に任せるべきことは任せるという方向でいいと思うんですけども、この高速道路ネットワークだけは、本来国がやるべき仕事ですから、すべてこれは国費によってまかなってやっていただきたいというふうに強く願っております。

それから、ちょっと細かい話ですが、数年前にある県民の人が私に提案をしたんですけど、県内の道路はそれぞれ整備をされているけれども、県境を越えての道路というのがなかなか整備されていないのではないか。そうすると、やはり高速道路を県境を越えての交流のネットワークというか、それで県同士が話し合っただけの道はないだろうか。

例えば、私のところの島根県の鹿野から島根県の六日市、それから広島県の吉和というところに中

国縦貫道が、インターが並んである訳ですけど、この間の道路というのは必ずしも整備をされていないということもありますので、例えばそういうところについては、お互いの県同士が話し合っ、無料化の方向で考えていくとかそういうこともどうだろうかという提案がありました。これについては、中で若干検討したことはありますけど、なかなか難しいかなというふうに思いましたが、今は料金体系が非常に細かくなってきておりますので、やはり高速道路を地域の中でもうまく活用する道というものもこれからお互いに話し合っ、知恵を出していけるものがあれば、積極的にやっていけたらいいのではないかなというように感じがしたということだけ申し上げておきたいと思ひます。

〔真鍋香川県知事〕

やはり高速道路は基本的な国のインフラだという点では、私もまったく同じ意見でありますし、四国の中もまだまだつながっていないので、これはやはり観光とか色々なことを考えますと、つながって初めて色々な効用が出てくると思ひますので、早くつなげるべきであるということでございます。

ただ、私は先ほどもちょっと言いかけてはいたけれども、やはり日本のインフラ整備のやり方が、ちょっと今の時代に合わないんじゃないかと思ひていますのは、やはり空港にしる、それから港湾、それから道路にしてもそこを通る人だけの利用料金で償還をすると、借金をして造って、そこを通る人だけの料金で償還をするというふうなやり方をやっていますと、高い料金になるか遅れるか、色々問題が出るし、それから外国とのやはりハブ空港とかハブ港湾とかいうことではかなわなくなりますし、それから国内の物流コストが船で運んでくるよりか、日本へ着いてからの近い距離の料金の方が高いというふうな事態も生じていますので、やはり道路特定財源とかそういうものを高速道路にもきちんと注ぎ込んで、整備しなきゃいけないものは早くやってしまうということが大事なのではないかということで、やはり高速道路は収入だけで賄うんだというようなことではなくて、やはり特定財源などもどんどん入れて早くやるべきであるというふうに思ひますので、是非そういう方向でやらないと、諸外国との競争とか色々なことから、今度のことで分かったのですけれども、やはり経済の活性化という面でよくないのではないかというふうに思ひますので、是非これまで取っていた税金は取って、それを建設の方へ、遅れているところへどんと投入し、早く仕上げるということが大事なのではないかと私は思ひております。

〔石井岡山県知事〕

岡山県もここにございます新直轄で、一部県の北部の方でございますけれども、県としても早期に開通できますように全力で事業を推し進めていきたいというふうに思ひております。

おっしゃるとおり地域がこれから活性化していく、そして地方分権を進めていくというためにも、基礎的なインフラでありますこういう高規格幹線道路の整備というものは国の責任においてしっかりと前に向かって整備をしていくということが基本中の基本の政策課題ではないかというふうに私も考へておりますので、このような議論をして、我々は連携して国の方に強く、強く主張していくということは大変有意義であるというふうに思ひております。

〔十河高知県副知事〕

高知県でございます。本県には高速道路の整備区間が37%というふうに非常に遅れております。

ご案内のとおり、本県、東西に海外線が長くありますけれども、東には国道55号1本、西には国道56号1本ということで、台風時、或いは大雨の時には交通が遮断をされて救急車も走れないとい

うような状況にあります。また南海地震が起こった際にも応急復旧に駆けつけるような手段、道路がないといったようなことから、やはり高規格の幹線自動車網の整備というのが県民の悲願でありますので、是非とも各県のご協力もいただきながら、整備率を高めていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔里見徳島県副知事〕

徳島県もこの四国8の字ネットワーク概要図をご覧のとおり、高速道路は非常に整備が遅れております。縦貫道は徳島から西の方に向かっている訳なんですけれども、問題は玄関であります鳴門から徳島がつながっておりません。

それで鳴門から南のずっと阿南までにかけて、それから阿南から、これは高規格であるんですけど、高知県の阿南安芸自動車ですね、これがまだまだこれからやらなければいけない。道路というのは、やはり地域経済活性化、地域の社会生活のためにどうしても必要です。

それで道路整備の今の予算の非常に厳しい中ですけど、枠組みを堅持していただいて、国へ対して働きかけを強め、特にこういうような時代ですから地域間格差の是正、それから地方重視の観点ということから、特に中四国9県が歩調を揃えて、しっかりとメッセージを出していく必要があるのではないかと思います。よろしくお願ひします。

〔高浜愛媛県副知事〕

本県も高知県さんとなぐ四国西南地域。この地域の開発のため、どうしても高速道路の南予延伸というのは一番大きな課題になっております。県内での地域間格差ということ随分言ってきました。

新居浜とか今治とかの東予に比べて、農林水産業を中心にして南予地域、宇和島から南の方はずっと高速道路が行っていないということは物流面でも、色々な面で、観光面でもネックになっております。

もう一言言いますと、実は1年前までですと、有効求人倍率が東予と南予で倍、半分開いておりました。ところが今回の経済不況の影響というのは製造業が中心の東予にも及んでおまして、1年前はここは有効求人倍率が1.3ほどあったのですが、直近では0.7というようなことになっております。1年前から南予は0.6というような状況でしたけど、現在は0.5。雇用の問題も非常に深刻になっております。

県下全体にわたって考えないといけない状況が生まれてきておりますが、南予の振興が県政の最重要課題であるということ変わっておりませんので、この地域の高速道路の延伸ということ第一に、各県協力して取り組んでいきたいと思っております。以上です。

〔大西四国経済連合会会長〕

皆様のご意見とまったく同じでございます。四国は、四国8の字ネットワーク、これが完結致しませんと、四国の中で循環をして高速道の利用ができないというのは、非常に今後の分権化社会に移行することを考えましても、最低限これは必要である。そうしませんと、四国外からいらっしゃる方が高速道路を使わずずっと循環をして各地を回っていくということになりますから、非常に重要である。

それから、もう近く発生が予見されております東南海、南海地震に対しましても、このメインの道路ができていけませんと、命をつなぐことにはならない、復旧もままならないというふうな感じが致し

ております。そんなことで経済4団体は毎年中央へ出ていきまして、国土交通省の次官以下の皆さんと色々お話をさせていただきました中では、四国8の字のネットワークの完結は重要であると、私ども考えております、ご安心くださいというふうなお話をいただいておったその矢先の、3月のはじめに全国で色々検討したら、16路線ですか、費用対効果がない、1以下であるということで休止をしたいというような国の方の意見が出たことにびっくり致しました。その中に四国8の字ネットワークを構成する高知のある一部分も入ってございます。そういったことではやはり駄目であろうというふうに考えております。

道路特定財源の一般財源化につきましても、四国はこぞって反対を致しました。そういったインフラ整備が遅れている以上、その予算を使って、財源を使って、何としてでも早く仕上げてもらわなければならないという考え方でございました。

従いまして、これは本当に皆さん、同じような歩調で国の方へも要求をしていきたい。また、是非そういったことで早く道路が完結をしてもらいたいというふうに考えております。以上でございます。

〔福田中国経済連合会会長〕

2年程前、国が道路に対する要望、交通ならびに色々な移動も含めて要望を取りまして、これを各県ごとにまとめましたところ、見事に四つの県が第一希望に高速道路を造ってくださいと。先ほど名前があがりました宮崎県、それから山形県、それに鳥取、島根の県民が第一希望に高速道路をというものが唯一、唯四と言いましょうか、3カ所に対しての強い要望が、それだけはっきりとインフラが遅れている。もともと都市から始まって都市を優先して、それから地方にということで進められてきた建設が、自分たちの番が来たかと思ったら、ガラッとステージが変わっちゃったということで、何が何でも将来のブロック経済が成長していくためにもこういったインフラも、背骨という部分是最優先で造っていただきたいということが一番でございます。

それから道路の必要性を経済効率性のみで評価するということはとんでもない話でございまして、やはり地方にとりましては安全・安心の確保、或いは地域が抱えます過疎化等の諸課題に対して道路が果たす役割ということを十分理解していただきまして、評価する仕組みというのを新たに示していただきたい。特に公共交通機関の整備が不十分な個所は、移動手段というのは自動車に頼るしかありません。企業誘致或いは地域の産業力向上という観点以上に、通勤、通学、或いは救急医療等の安全・安心な国民生活を支える社会基盤だということで、これを評価していくべきだろうと。

それから西日本、九州、それから中国地方、四国地方、四国さんを含めまして、この3ブロックは将来これはアジアの成長とともに生きていけるブロックでございます。そのためにもスムーズな物流、人流交流ができるようなインフラ整備は今のうちに確保しておりませんと、イコールフットィングの『よーいドン』にはならないということを申し上げておきます。よろしく申し上げます。

〔有岡広島県副知事〕

ありがとうございます。この件につきましても色々意見がございまして、意見が尽きないと思えますけれども、ただ今のご発言、共通認識と致しましては、まず高速道路のネットワークは国の責務においてきちんとやり遂げるべきであるということ。

それからやはり整備が遅れている部分があるということはきちんと申し上げるべきであるということ。

それから単に経済効率性だけでネットを張るのではなく、地域全体の要ということを考えてもらい

たいということ。それから財源についてはきちんと確保してもらうこと。その際には料金をどうするかということも合わせて考えるべきであるということ、このあたりが共通認識かと思えます。その上で行政、経済界、いずれにおいても積極的な働きかけをしていくということで、本日の皆様方の共通の認識ということでまとめたいと思えます。ありがとうございました。

それでは、先ほど平井知事の方からご提言がありました新型インフルエンザについて、僭越ながら私なりに考えてみますと、まず1点目として、今日の皆様方の考え方として、新型インフルエンザに関しては行政地域間の垣根はないと、要するに何時どういふふうに入ってくるか分からないということ、これを共通認識として持つということ。

それから、当然ながら新型インフルエンザに関する情報の交換或いは共有を進めるということ。それから3点目に、具体的にはこれは早急な詰めがいますと思えますけれども、特に集中的な発生が生じたような場合に、検査体制等について協力を進めるといったあたりで、私の勝手な考えかもしれませんが、ご意見があればお願いします。

〔十河高知県副知事〕

我々の県でも簡易の検査をして陽性となった方を、衛生研究所でPCR検査をしてございますが、その機器とそれから人員体制というのが非常に乏しくて寝る間もないような形での検査をしてございます。

うちの機器でありますと、1回に5人分が6時間以上かかるということで、5人分やってまた6時間以上かかって次をやるという、検査員が寝る間がないというような体制で、これが大阪や兵庫のようにぐっと蔓延をしますと、まったく機能しないというような状況になりますので、そこは機器の追加導入と人的体制の研修というものを今進めておりますけれども、できれば今ご提案のあった各県での連携というものが、協力体制というものが取れば、自県で起こったような場合にはそこまではないと思えますけど、そういう協力体制が取れるような合意というものがあれば、非常に県民にとっても安心できると思えます。よろしくをお願いします。

〔溝口島根県知事〕

同じ意見であります。各県ともどういう状況にあるかという、どこも発生してくると難しいのですが、初期の段階ではある特定のところに集中して出てきたりして、そこで検査を早くしなきゃいけないと、しかし他ではまだ空いているような可能性もあり得るでしょうから、まずそういう実態、協力のやり方の可能性等を事務的に連絡を取り合ってやっていただくということがまず必要なんじゃないか。

そういうことをやるということについて、まずこの中四国サミットで合意をしてやってもらう。

それに基づいて具体的なやり方を事務方からそれぞれあげてもらおうというようなことにさせていただくのが合理的なのではないかと思えます。

〔有岡広島県副知事〕

ありがとうございました。今幾つかご意見がございました。恐らく私が勝手に言った3点でございませうけど、共通認識とか情報の共有、これは直ちにできる話だと思いますけれども、今色々意見がありましたように、協力体制を具体的にどうするかについては各県或いは各市町村の体制がどこまで構築

できるかという話と、あと発生の仕方などによる前提条件で色々対応が変わってくるということも言えると思いますので、早急に事務方で調整をするということを本日申し合わせることにしてはと考えますが。

〔溝口島根県知事〕

その中で具体的な提案は平井さんから高知の副知事さんからもありましたが、検体をチェックする能力がそれぞれの県で限られている訳です。

まず、それぞれの県がチェックして、そこで新型だということになると、国に運んで国でまたチェックをして最終確認をするということになっている。各県でやる時に集中的に発生すると、そこで時間が非常にかかるということがあるから、分散してできないのかというのが平井さんのお話であり高知県のお話ですから、そういうことも含めて、そういうことはちょっと実際的に可能かどうかということをチェックしませんとできませんから、まずそういうことをやってもらおうと、具体的に指示をするということを含めていただいた方がいいですね。

もちろん、それ以外にも色々な協力の仕方等を実務的に詰めなきゃいけない部分がありますから、そういうことをできるだけ担当部長レベルといいますか、担当ベースで早急にやってもらい、それでまとめてもらおうということだと思います。

〔石井岡山県知事〕

大変に重要なお提案をいただいているのだと思いますが、結局、今、疑わしい例が出てきたという時に、各県でしっかりと検査をしますけれども、同時にそれをまた国立感染研究所の方へ送って、国のお墨付が出て初めて確定するということなのですが、今回のように通常の季節性インフルエンザと同じような状態の中で発見がされたということになりますと、結局、通常、私どももスタートしたのですが、サンプル調査と言いまして通常のインフルエンザとして診察を受けている者の中から、幾つか検体をピックアップして県の方でも1回検査を試みようかと、その可能性も出てきたということだと思うんです。

ですから渡航歴の有無に関わらず、そこまで私ども踏み込んで現場でやっておりますので、そうするとその検査をする体制が今のお話のように各県ともそれぞれ手いっぱい、できる限りのことを今やっているという中でございますので、もちろんある県で出てきたということで、これを検査しなきゃいけないという時に隣の県、或いは中四国で連携して協力体制を整えるということは、大変意義があるということで賛成させていただきますけれども、実際に実務上どこまでできるかということにつきましては、島根県知事さんのおっしゃられたようなことで、実務的にしっかりと慎重に検討した上で対応していかなくちゃいけないのではないかというふうな感じがします。

それからもう1点。このあと全国知事会でも大きな議論になると思うのですが、もう通常の季節性インフルエンザと何が違うのかということまで、これから感染が広がってきた時には議論になると思うのです。

そうすると、通常の経済活動或いは市民の生活というところに多大な影響を及ぼすであろう様々な自粛とか休校とか色々なことが議論になってくる中で、その議論を国の方でもしっかりと一定の方針を早急に出してもらいたいと、全員が全員入院ということにすると、これはもういっぱいになってくると思うんです。

ですからそういう受け入れ体制能力の問題というものも当然これは議論していかなくちゃいけない

というふうになりますので、まずは国に対してしっかりとそういった面の指針を早急に明示してほしいといったようなことも、我々は今の段階から国の方に対して、要請をするべきではないかというふうにも思います。

〔平井鳥取県知事〕

有岡副知事の方で先ほど述べられた共通認識で大方良いと思うのですが、私も言い出しつぺなので付言させていただきます。

溝口知事、石井知事がおっしゃっていることと私も同感なのです。それぞれの県でそれぞれの事情があって、今対策を打っています。鳥取県の場合、A型はまずないのです。B型の流行しかほとんどありませんので、そうしますとA型が出た場合には、通常の海外から渡航歴の有無にかかわらず、PCR検査に回そうということをやっています。

ただ伝播力が強い伝染病だということが分かってきていますので、急速に広がってきた場合に果たしてどこまで対応できるかという不安をそれぞれの県が持っているのだと思うのです。

災害と同じでありまして、相互に応援できる状況にあれば、相互に応援していきましょと、そういう基本的な認識を一にすること、それから国に対して一致してこれについての対策、私は石井知事の今のお話にまったく同感なのですが、単純にマニュアルどおりにやればよいというものではないと思います。

ですから自宅療養も、その手引きも作ってやろうと、私は今から乗り出そうと思っているのですが、そういうように方向転換を国に迫ることなど、共通で話し合いながら、事務方で話し合いながらで結構でございますけれども、行動を起こしていこうという認識を持つことが、この場では大切ではないかと思えます。具体のところは、実際の発生状況やその時の事情で協力できる状況であれば協力していきましょという理解でよろしいのではないかと思えます。

〔有岡広島県副知事〕

分かりました。それでは共通認識といいましょか、今日の午後、全国知事会でも出るかと思えますけれども、国にどういうあり方であるべきかということと、もちろん、まず自分の地域の責務を果たさなきゃならないというのが第一義だと思えますので、その上でどういう協力ができるかということと事務的にも調整するということで、今日の皆様方の考え方というふうに致したいと存じます。

時間が迫って参りましたので、特に配布している資料等でご発言があれば、お願いします。

〔石井岡山県知事〕

資料ということではございませんが、せっかく経済団体のトップのお二人がご出席でございますので、本来ですと地方分権改革などもしっかりと議論して、共通の認識に立つべきだと思うのですが、今日は時間がないということでございまして、ご案内のとおり経済同友会の方で、全国の同友会の方で先般中央分権改革の徹底と、道州制導入に向けた政治の決断を求めるといった提案をされ、そして中四国各県の同友会の皆様もご賛同されたというふう聞いております。

是非とも、我々知事レベルでは分権改革、意見が一致をして議論しているところでございまして、経済界の方でもこのようなご提言をされたということは意義深いこととございまして、私は大変うれしく思っておりますが、是非ともそれぞれの経済連合会の中におかれましても、そういう方向で地方

分権改革，そしてその先にあります道州制の議論ということも含めて，是非ともしっかりと経済界としての議論の盛り上げを図っていただけますれば大変ありがたいと思ひまして，時間のないところでございますが，あえて一言お願いをさせていただきたいと思っております。

〔福田中国経済連合会会長〕

地域の活性化のためには，先ほどのご案内の部分はまったくもって不可欠であると認識しておりますので，いたるところでそういったことの声あげていかなきゃいけない。

四国さんもそうでしょうけども，中国地域では例えば5県の知事と5県の経済界代表で構成しております中国地域発展推進会議という場もございますし，その他これに限らず経済界からもサポートという格好で要望の声をあげていきたいというふうに思っております。

〔大西四国経済連合会会長〕

私ども経済団体は地方分権の究極的な姿である道州制につきましては，数年前からありとあらゆる機会を捉えて，この中四国サミットでも議題にさせていただきながら，検討しております。

今，石井知事がおっしゃられましたように，経済同友会がおやりになられたことも承知を致しておりますが，私ども経済団体も中部以西が西日本経済団体協議会を設けておりまして，そこでも毎年その件については議題として集約をし，国の方へもその件を要求を致しておりますので，ご意見は分かりましたが，改めてだからどうというようなことではございませんで，もう既にそういった活動もしておりますのでご安心をいただきたいというふうに思います。以上でございます。

〔有岡広島県副知事〕

ありがとうございました。それでは予定しておりました12時30分になりましたので，議事を閉じたいと思ひますが，最後に次期開催県につきましては高知県さんのご担当となりますがよろしゅうございますか。

〔十河高知県副知事〕

今年の開催につきましては広島県さんにお大変お世話になりました。次期開催県ということでございますので，今後皆さん方と打ち合わせをさせていただきながら，有意義な開催になるように努めていきたいというふうに思ひます。来年は大河ドラマ『龍馬伝』ということで，来年の1月から竜馬の出会い博というのをやることとしております。是非とも高知県に高速道路を使っておいでいただければ，ありがたいと思ひしておりますので，また打ち合わせをさせていただきますが，どうぞ来年の高知へのご来高をお待ちしております。

〔有岡広島県副知事〕

では，よろしくお願ひ致します。それでは以上をもちまして第19回中四国サミットを閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。